



がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第125号

長かった冬も過ぎ、樹々の新芽も日に日に膨らむ季節となりました。ほほえみ読者の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。昨年は新型コロナが手探りの状態でしたが、今年はワクチン接種の手続きの話もちらほら聞こえてくるようになり、長引いてはいますが、状況が変わりつつあるのを感じます。こちらも、季節感が変わっていくことを願っております。今年度から、東北大学、東北医科薬科大学から週二回の診療応援にきていただくこととなりました。火曜日、木曜日が担当となりますのでよろしくお願い申し上げます。

新型コロナワクチンについて

最近、新型コロナワクチンに関してご質問をいただくことが多くなっており、現時点での日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会が合同で作成した指針に関してご説明致します。

・がん患者さんがワクチン接種を受けた方がよいのか？

がん患者さんは、国内でも海外でも優先接種グループに含まれています。現在、接種が始まったファイザーワクチンでは、臨床試験43,640名の対象者のうち、がん患者さんは1,395名でさらに、実際にワクチン接種を受けた方は733名(対象者の52.5%)でした。その方の実際の効果・副作用に関しては明らかになっていません。しかし、一般的な事象として総合的に判断して、接種は勧められるという結論になっています。

・抗がん剤や分子標的薬とワクチン接種のタイミングに関して

これに関しても明確な結論は得られていませんが、以下のように記載されています。

抗がん剤治療とワクチン接種

1. 化学療法当日
 2. 骨髄抑制で白血球数が下がる時期
 3. 骨髄抑制で血小板数が下がる時期
 4. 治療予定日の2-3日以内
- は接種を控えるとされています。

分子標的薬とワクチン接種

基本的には、あまり制約がなく接種できるという判断です。しかし、間質性肺炎に関する注意が喚起されています。

免疫チェックポイント阻害薬

免疫チェックポイント阻害剤投与予定日の2-3日前は避けた方が良いとされています。この薬剤の場合も、間質性肺炎に関する注意が記載されています。



今後、国内のワクチン接種が進んでいくことで、コンセンサスが変わっていく可能性があります。基本的には当科での対応も、これに沿う形となります。

新型コロナ肺炎の動向

一旦、かなり下火になったかに見えた新型コロナウイルスですが、宮城県で急拡大したのに次いで、本県でも徐々に患者数が増加してきています。今までと違って、比較的若年者の発症も増えてきている印象です。

変異ウイルスの方が、感染力が高く、特にイギリス型と言われているものは重症度も上がると言われています。ワクチン接種する前に、罹ってしまうのは残念なので、マスク、うがい、手洗い、換気など特に、抗がん剤治療をされている方に関しては、一段と気を引き締めて、お過ごしいただければと存じます。

変異ウイルスの特徴

NHK

	“イギリス型”	“南アフリカ型”	“ブラジル型”
変異	N501Y	N501Y E484K	N501Y E484K
感染力	36~75%↑	50%↑	従来より↑
重症度	入院・死亡のリスク 上昇の可能性高	従来と変化なし	影響は限定的
ワクチン の効果	大きな影響なし	“十分な効果” 検証中	調査中

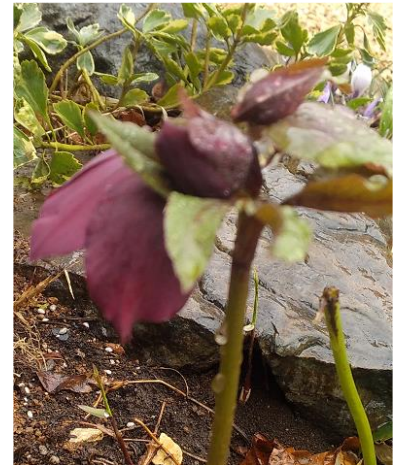
(WHOなどの調査から)

NHKのホームページより引用

クリスマス・ローズの開花

二年前に植えていた、クリスマス・ローズがようやく開花しました。クリスマス・ローズは初めて育てたので、どういう風に株が成長していくのか見当がつかず、昨年は開花しなかったもので、いつ咲くのかと不安でした。シックな色だろうとは思っていたのですが、思っていたよりさらに落ち着いた色でした。

何か、人の通らない向きに恥ずかしそうに咲いているのが、不思議です。最初に咲いたことで、じろじろ見られるのが嫌なのでしょうか。クロッカスはピークを過ぎましたが、次に咲くとしたら、プルモナリアではないかと思えます。



MEMO

4月のがん化学療法科の予定

4月1日	診療応援(平出先生)
4月6日	診療応援(佐々木先生)
4月8日	診療応援(平出先生)
4月13日	診療応援(工藤先生)
4月15日	診療応援(平出先生)
4月20日	診療応援(佐々木先生)
4月22日	診療応援(平出先生)
4月27日	診療応援(工藤先生)
4月29日	昭和の日



今年の盛岡の開花予想は、4月8日で例年より早いようです。